

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 81を発行します

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇マリ共和国旅行記（6）－きれいー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 81を発行します

塩化ビニル環境対策協議会

6月15日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は PVC News No.81 を発行します。

今号の「シリーズインタビュー/さきがけびと登場」は世界的な分析学者で、細胞分析のトップランナーとして活躍されている広島大学の升島先生に登場願いました。衝撃吸収型 EV カー「iSAVE」を開発された先生でもあり、分析化学と「ものづくり」に対する熱い思いを語っていただきました。

No. 81号の構成は以下の通りです。

○トップニュース

「塩ビものづくり」リターンズ！

「PVC Design Award 2012」開催。「社会に求められる〇〇^{かける}× SOFT PVC」をテーマに、求む！清新の気風あふれる作品・製品。

○シリーズインタビュー/さきがけびと登場

分析化学と「ものづくり」の思想

手作りの装置が迷いの道を切り開いた

－細胞分析のトップランナーが語る「アイデアを形にする方法」

広島大学大学院 医歯薬学総合研究院 教授 升島 努 氏

○リサイクルの現場から

液状化被害の塩ビ管をリサイクル

－潮来市・稲敷市の挑戦

復興に向けて塩化ビニル管・継手協会のリサイクルシステムを利用

○インフォメーション1

塩ビ管がアユやフナシェルターに

ブラックバスなど外来魚の攻撃をストップ。生態系を守る NPO のアイデア

○インフォメーション2

下水道用塩ビ管、敷設後 30 年でも基本性能を維持

名古屋市の協力で本格調査。「長寿命性」を実証するデータが明らかに



○海外事例紹介

ロンドン・オリンピックで塩ビ膜材が活躍

メインスタジアムなど様々な競技場を機能的に、華やかにデザイン

○広報だより

- ・「下水道展 '12 神戸」(7/24-27)に出展予定(塩化ビニル管・継手協会)
- ・『環境最前線』第4版が完成

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「トップニュース」では、PVCのサプライチェーンが一緒に取り組んでいる「塩ビものづくりコンテスト」が、新たに「PVC Design Award 2012」の名称とともに再登場した話題を取り上げました。

『社会に求められる〇〇^{かける}×SOFT PVC』をテーマに身近に出会うSOFT PVCと色々なものを掛け合わせることで、新しい作品・製品が出来ることを求めています。

「リサイクルの現場から」では、潮来市と稲敷市が取り組んでおられる被災した塩ビ管のリサイクルを取り上げています。両市の下水道管は東日本大震災による液状化の被害を受けました。塩化ビニル管・継手協会の契約中間処理会社である(有)三豊が、これまでの経験を活かして受け皿となり、回収してリサイクルしている様子取材しました。

「インフォメーション」では、昨年エコプロダクツ展でブースの装飾に使用した塩ビ管をNPO「おさかなポストの会」が活用して、外来魚から在来種を守るシェルター(魚礁)を作る取り組みを紹介しました。多摩川で行なわれた「多摩川アユ祭り」では子供たちが塩ビ管をノコギリでカットして塩ビ管シェルターを工作する模様も併せて取材しました。

『PVCニュース』はJPECのホームページから、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。

<http://www.pvc.or.jp/>

ご講読を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

info@vec.gr.jp

■ 随想

◇マリ共和国旅行記(6)ーきれいー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

マリ共和国に限らず、アフリカや中近東の人は“自分のテリトリー”は非常にきれいにします。砂埃の多いマリ共和国の人は、毎日、家の中や玄関先を洗剤を含んだ布やモップで磨いています。庭は箒できちんと掃き、箒の跡は京都のお寺の庭のようです。洗濯も大好き、食器はそれこそピカピカになるまで洗剤と砂で磨き上げます。

これだけ沢山の石鹼を使う国も珍しいかもしれません。しかし、気になるのは使い終わった水の処理。ドブにも流しますが、全部の家庭がこの排水をドブに流すと、多分、そこから中が泡だらけになるでしょう。このことを知ってか知らずか、マリ共和国の人は使い終

わった石鹼水を道路に撒きます。ほとんどが舗装されていないので、そのまま地面に浸み込み、アフリカの太陽の元、すぐに乾いてしまうので、いいと言えいいのですが。。

使っている石鹼は液体石鹼ではなく、昔ながらの固形石鹼（日本の洗濯石鹼）です。しかし、毎日、あれだけの量の石鹼水が撒かれると、土壤汚染が気になる場所です。

もう一つ気になるのが、衣類は洗濯をした後、ちゃんと水ですすぎ、干しています。ところが、食器は石鹼で洗い泡だらけのものを布で拭き、あとは自然乾燥。食器を洗い終わった後、水ですすぐということがないのです。もちろん、ちゃんとしたレストランではすすいでいるのですが、屋台や地元の定食屋のようなお店で、きちんとすすいでいるのを見たことがありません。

確かに、ヨーロッパなどでもすすぎ不要と書かれた洗剤を見たことがありますが、マリ共和国で使っているのは固形石鹼。布で拭いて、よく乾かしてあるため、その食器を使っても石鹼の味はしませんが、そのうちに口から泡がブクブクとなりそうで、気になる場所ではあります。

きれいと言えば女の人の髪型。ほとんどの人が子どものころから沢山の小さな三つ編みにしています。結っているところを見ていると、髪の毛をかなりぎゅうぎゅう引っ張って細かく結んでいます。あんなに強く引っ張って、それも、ずっとあの力が加わって禿げないのかなあと心配になります。ところが、これは現実でした。

露店の美容院(?)or 髪結い(?)を見ていたら、あの細かい三つ編みを解いた女性の大半の人の髪の毛は薄くなっていました (>_<)

結い直しているところを見ていると、付け毛（という表現でいいのでしょうか）と一緒に編み込み、量があるように見せていました。

女性の服で流行っているのでしょうか。光沢のある服を着ている人が多く目につきます。どんな素材だろうと気にはなっていたのですが、洗濯物として干してあるのを見てビックリ。ビニル製でした。乾燥しているとはいえ、日中の気温は軽く 35 度を超えます。よくまあ通気性のないビニル製の服を着ていられるものです。

きれいに見せるのも、なかなか大変なようです。

若い男性の髪型で流行っているのが、角刈り。日本の角刈りと比べ髪の毛の長さは3倍ほど。イメージ的には、映画「星の王子 ニューヨークへ行く」の時にエディ・マフィーがやっていたような、一見すると帽子をかぶっているような髪型です。

何だかそこら中にエディ・マフィーが歩いているようで可笑しくて仕方ありません。

マリ共和国の人は正式なおしゃれの時は金製品を身に着けることが大好き。これはマリ共和国に限ったことではなく、中近東の国でも同じですが、金製品はもしもの時、簡単且つ、確実に現金化できるので政治や治安の悪いところほどアクセサリーと緊急時の蓄えとして金製品が好まれています。

現金化ということもあり、純度が高い金が好まれる傾向にあるようです。このため、24金クラスが普通のように日本の感覚からするとキンキンギラギラ。24金クラスになると、あまりにも柔らかすぎて使っているうちに傷だらけになったり、重さが減ったりしないかと心配になるのは余計なお世話でしょうか。

きれいとはちょっと離れますが、お祭りでは仮面をかぶるものが多いようです。今回、マリ共和国ではお祭りに遭遇することはありませんでしたが、お祭りで使うための仮面をあちらこちらで見ることができました。基本デザインはよい人 or 神様と邪悪な人 or 悪魔の組合せです。動物を模ったものは見ませんでした。

日本のお祭りだとよい人か神様が勝ってめでたしめでたしとなりますが、マリ共和国では邪悪な人や悪魔が勝つことも少なくないとか。本当かどうかは分かりませんが、あの村は邪悪な村だという風評をわざと与えることで他の部族からの襲撃を避ける意味があるそうです。

お祭りも文化によっていろいろですね。

(つづく)

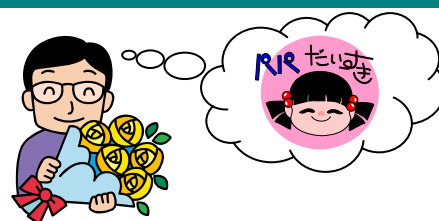
前回：[「マリ共和国旅行記」\(5\) -市場-](#)

■ 編集後記

関連する会社のご好意により、リサイクルやPVCの加工の現場を見学させていただきました。見学させていただいた「ものづくりの現場」では、いずれも5Sが徹底されており、また様々なところで創意、工夫が活かされている、いわゆる「改善」が実践されていることをあらためて実感しました。ところでこの日本語の工場で使う「改善」は、そのまま英語で「kaizen」になっていることはご存じの方が多いと思います。これは最も近い英語訳の「improvement」には、どうしても「お金をかけて」というニュアンスが入って、「お金をかけずに、知恵を絞って」という概念がないためにkaizenという英語になったことを最近知りました。文化を訳す、訳せることはすばらしいですね。(鈴蘭)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp